

こが のぶあき
古賀 伸明

連合・事務局長

2009年年頭に思う

明けましておめでとうございます。

ご家族お揃いで健やかな新春をお迎えることとお慶び申し上げます。

昨年一年間の皆様の様々な課題克服に向けた精力的な活動に、心より敬意を表します。昨年一年も内外にわたって、様々なことがありました。私自身、あっという間の一年が過ぎ、と言っても色々なことがありすぎて、長かったのか短かったのかさえ体感できない一年だったかもしれません。

昨年を思い起こせば、経済・社会の分野では、餃子などの食品の不安、ビルマと中国での大災害、北京オリンピック、米国発の金融危機、四人の日本人がノーベル賞受賞、アメリカ大統領選挙でのオバマ氏の圧勝、これまでは考えられなかったような殺傷事件の数々など、ランダムに昨年の出来事が浮かんできます。

特に、元厚生次官や関係者の殺傷、通り魔殺人、引きずり・ひき逃げ殺人、また、秋葉原無差別殺傷などの事件は、痛ましいの一言では片付けられないことであり、生命・命の尊さ、重さを考えさせられたと共に、日本社会の歪みによる社会病理現象が表面化しているのではないかとこの感にとらわれた年でした。

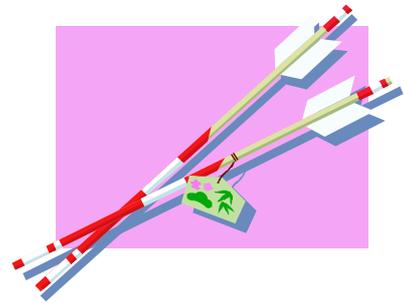
そして、9月には福田総理が1年足らずで政権を投げ出し、交代した麻生総理の迷走が

りが、何と言っても昨年後半の最大の話題と言わざるを得ません。私の所属する連合が毎月発行している月刊連合でも10月「なにがなんでも政権交代」11月「今一度、なにがなんでも政権交代」12月「くり返し、なにがなんでも政権交代」と題して、3ヶ月にわたって政権交代への思いを訴えてきましたが、残念ながら未だその状況にはなっていません。

10月3日の臨時国会冒頭解散・10月末から11月総選挙、次に、10月末解散、11月末総選挙は間違いないと想定されながら、麻生総理はあっさりと10月末に実質的な衆議院解散・総選挙の先延ばしの記者会見を行いました。それ以降の麻生内閣の迷走ぶりは、私が言うまでもないことです。

3代続けて国民の信任を得ていない内閣が、本格的な経済・社会政策に取り組むことには無理があります。選挙での信任を受けた本格的な政権が必要であり、麻生総理は早急に解散・総選挙を決断すべきです。支持率が上がらないからといって、その場しのぎの景気対策で国民受けを狙うのではなく、解散総選挙を実施し国民の審判を仰ぐことが先決です。

連合は、2006年から「STOP!THE格差社会キャンペーン」を展開し、政権与党の政策の転換を求めてきました。現在、総選挙をゴールとしたキャンペーン「STOP!THE格差社会～今こそ政策と政治の転換を～」を全国で展開しています。日本を安定・安心・信頼の社会に再構築するためには、政権交代しかない



のであり、その日のために、私たちは政権交代を目指した活動を着実に推進していく必要があります。

さて、言うまでもなく新しい年になったからといって、すぐに事態が変化するものではありませんが、何となく新年は夢と希望があふれるスタートという気持ちがあることも事実です。しかし、私たちを取り巻く環境は、予想をはるかに超えるスピードで激変し、私たちの働き方や暮らし方、生き方にまで大きな影響を与えています。また、社会全体の枠組みの変動や価値観そのものが変化してしまう大きなパラダイムの転換期は、私たち個人と個人、個人と社会、個人と組合組織との関係をも大きく変化させようとしています。

今年も様々なことが私たちを待ち受けているでしょう。このような状況の中で、まず私たちがやらなければならないのは、何といても更なる意識改革と行動改革です。変化する環境の中で、その周囲との関係を成りゆきにまかせるのではなく、その時々自らの存在を如何に主体性をもって対応していくのかということだと思います。言い換えれば、自らのこととして真正面からそれらに向かい合い、前向きに対処・行動していかなければなりません。さらに一歩進んで、主体的に周囲を動かしていくことが出来れば、より一層運動や活動のやりがい生まれてくるでしょうし、そのためには、自分自身を鍛え・磨き、

様々な人達と真剣に接していかなければなりません。それは何も大きな運動や活動ということだけではなく、日常の活動やそれぞれの生活にも当てはまるものだと思います。

この極めて難しい時代の中にもイキイキと輝いている人に多く出会いました。よく言われるスポーツの世界のみならず、少し視野を広げれば、傍にもそんな人たちがたくさんいます。その人たちに共通していることは、穏やかではあるけれども自分の足でしっかりと立ち、自分の目で物を見、自分の手で触れたことから何かを感じ、それを行動に移しているということです。そして、本当にそうだろうかと前例や常識を疑う姿勢を忘れずに、常に新しい風に吹かれてみたいという心を持ち続け、そのひたむきな情熱が物ごとを好転することを信じて疑わない人たちでした。困難を克服することを夢に置き換え、様々な課題を乗り越えるプロセスを自分のやりがいに変え、さらに、課題を解決していくプロセスを深い意味での楽しさ・エンジョイしていこうと心がけている人たちでした。難しい時代ですが、私たちも、是非こんな姿勢を学びたいものです。

今年も課題山積の年となると思いますが、このような時代だからこそ、新たな創造へ向けた気概と情熱を持ち続けなければなりません。皆様にとって実り多き年となりますよう心より祈念申し上げます。